

2025年を制覇する破壊的企業 「誰もがこの11社から逃れることはできない」

※書籍:「2025年を制覇する破壊的企業」 著者:山本康正 発行:2020年11月15日 ※所見:5年後に破壊される企業、台頭する企業が分かれば、世界経済、日本経済の流れの中で、私たちの仕事(建築含む)をどのように変えていけば良いかが分かる。

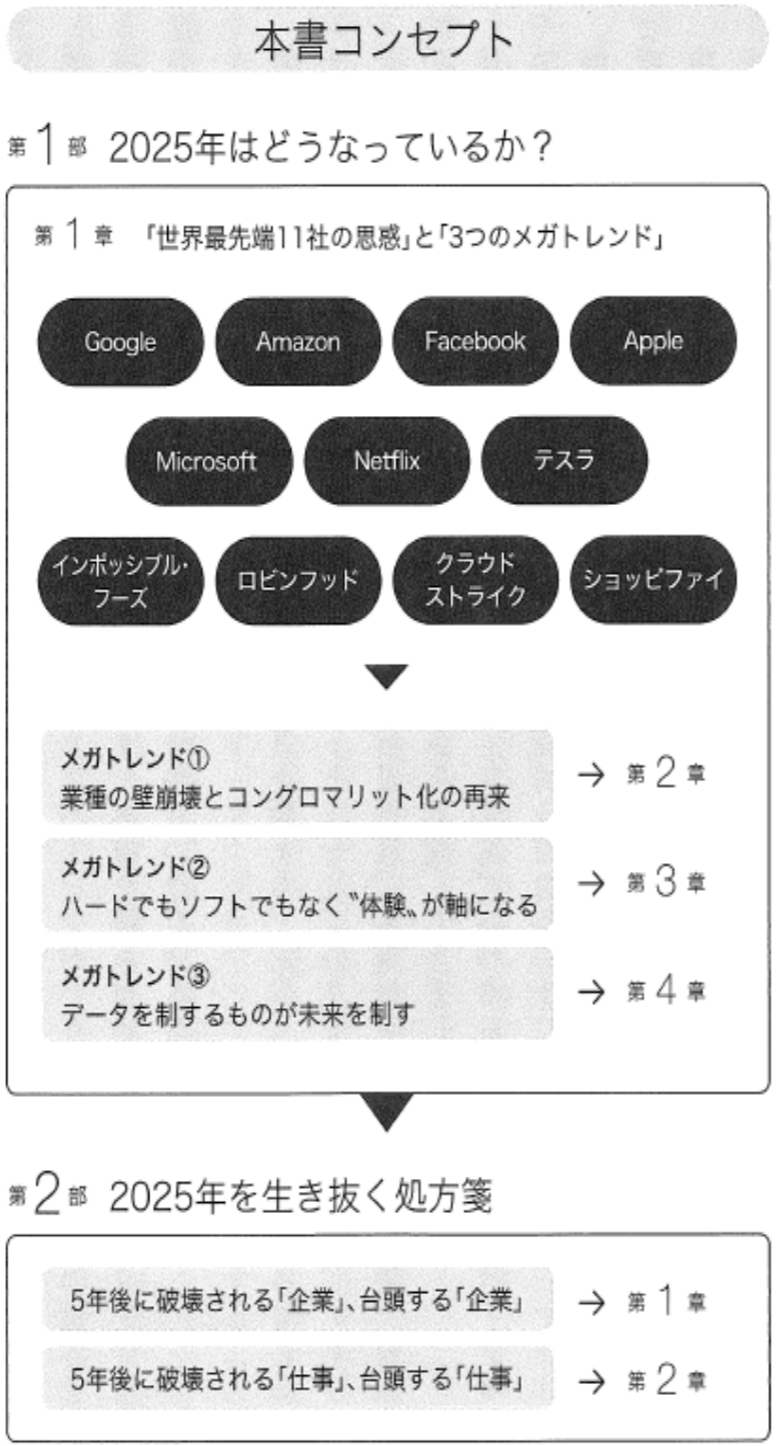
- 【まとめ：2025年を制覇する企業 ⇒ FAANG+M&5社】
- (1) FAANG+Mは更に拡大
 - ①フェイスブック、②アマゾン、③アップル、④ネットフリックス、⑤グーグル、⑥マイクロソフト
 - (2) 新たに台頭する5社
 - ①テスラ、②インポッシブル・フーズ、③ロビンフット、④クラウドストライク、⑤ショッピファイ
 - (3) 11社がつくるメガトレンド
 - ①業種崩壊とコングロマリット化、②体験が軸、③データを制するものが未来を制す
 - (4) 2025年を生き抜く処方箋
 - ①会社に依存しない、②ストラクチャル・ホールになる、③5つの必須スキルを持つ

【本書コンセプト】

本書は2部構成になっている。第1部では、2025年がどうなっているかを描いている。11社がどのような思惑を持ち、動いているのか。そして、そこから生まれる社会のメガトレンド、5年後に実現する未来の姿を、より深く紹介している。第1部を受け第2部では、企業そしてビジネスパーソンがどうしたら5年後の世界を生き抜くことができるかを深く考察している。本書を読み進めれば、著者がイメージした2025年の未来が夢物語でないことが分かる。

著者は、書店に並ぶ多くの未来予測書を読み、決定的に欠けていると感じる点を指摘している。それは、「そのビジネスやテクノロジーは、本当に人々に浸透するか(儲かるか)?」である。どんなに革新性が高い製品やサービスでも、儲からなければ世の中に広がることはない。常にこの観点を持っているベンチャーキャピタリスト(著者)としては、表面的で目立つことが目的である分析による多くの未来予測書が読者の行動を翻弄していると指摘している。実際、テクノロジーの知識があると、未来予測の芽の想像は大体分かる。業界を破壊するようなイノベーションは、テクノロジー界隈で起きやすい。そこで生まれたテックベンチャーは、簡単に方向転換し、業界を超える特徴も持ち、その結果、短期間で大きく成長する。代表的な企業がGAF(A(グーグル)、A(アマゾン)、F(フェイスブック)、A(アップル))である。しかし、今この瞬間にもGAF(A)に続くベンチャーが次々と生まれ続けている。現在は、2社加えてFAANG+Mとも言われている。著者は、更に5社を加えて11社を紹介し、その企業が社会、未来へのインパクトが強い成長企業と位置付けている。

新たなテクノロジーを生み出している企業の動向を追うことは、これからのトレンド、未来の世界の動きを知ることができる。GAF(A) (4社)だけを見ているのは、日本だけである。ここで紹介している11社が2025年を制覇する企業であり、このことは、世界の常識である。時代のトレンドに乗り遅れ、未来予測を間違えると、いかに大きな企業であっても淘汰される。本書では、現代と大きく様変わりするであろう2025年の未来で、企業やビジネスパーソンが生き残るためにはどうすればよいのか、その術も紹介している。



- (1) FAANG+Mは更に拡大
- ① フェイスブック

フェイスブックは、人同士のコネクションをフォーカスする。インスタグラムを買収し、その方向性は強化された。ホライズン(2019年)は、ネット上の仮想空間(アバター)で交流する。リブラによりネット上での送金を可能にする。
 - ② アマゾン

アマゾンは、顧客ファーストを更に強化する。屋内使用のAI(アレクサ)は、屋外へ進出し、様々な支払いもアレクサがする。個人との繋がりを強化し、アマゾンマンション、アマゾン保険、アマゾンローン等へも進出する。
 - ③ アップル

アップルは、パソコンから携帯(iPhone)へ移行して急成長した。今後は、クレジット(アップルカード)、ワイヤレスイヤホン(エアポッズ)、メガネ(アップルグラス)等の金融・聴覚・視覚等へも進出する。
 - ④ ネットフリックス

米国での動画配信会社としては、ネットフリックス一強である。今後は、利用者一人ひとりに最適なものを提供するため、オリジナル映画を作成してマルチエンディングを提供する(個人の思考をAIで推定して最適なエンディングを自動提供)。
 - ⑤ グーグル

グーグルは、検索させるのではなく検索前の世界へ進出する(ググル前に最適なものを提供)。多くのデータから各個人のニーズに対応してサービスを提供する。ユーチューブ、アンドロイド、ディープマインドを買収し、人口知能等の技術力を高めている。
 - ⑥ マイクロソフト

携帯に乗り遅れたマイクロソフトは、サブスクリプションサービス(定額制)の導入で復活した。注目はクラウド化による都市OSの獲得(スマートシティOS)であり、既に米国政府のクラウドシステムは、マイクロソフトが受注した。

- (2) 新たに台頭する5社
- ① テスラ

テスラは、電気自動車の販売会社である。オール電化の他、無人化ロボタクシーを開発している。ロボタクシーは、人件費0円なので電車より安くなる。更に新幹線代替のハイパーレープや高速運行のボーリングカンパニーもある。
 - ② インポッシブル・フーズ

インポッシブル・フーズは、原材料が大豆の代替肉である。米国は、肉を食べないベジタリアンがかなり多く、レストランにもベジタリアン向けのメニューが当たり前用意されている。この大豆代替肉は、どんどん美味しくなっている。
 - ③ ロビンフット

ロビンフットは、証券業界初の売買手数料0円でスマホアプリから簡単に投資ができる仕組みを作った会社である(お金は証券会社からリベート還元される)。その結果、富裕層が主だった証券投資に若手が算入し急拡大をしている。
 - ④ クラウドストライク

クラウドストライクは、全企業がコロナで在宅勤務となる状況に、1億総テレワーク社会としてセキュリティをフォローしている。クラウドストライクを導入すれば、どんな企業でも安心して社員にPC持ち出しをさせてテレワークができる。
 - ⑤ ショッピファイ

ショッピファイは、企業のECサイトを開発・運営する会社である。アマゾンや楽天等の大手ECサイトは手数料が高い。ヴィトン、ディズニー、ナイキ等は、アマゾンへの出店をやめショッピファイでの自社ECサイトを充実させている(10兆円ベンチャー)。

- (3) 11社がつくるメガトレンド
- 世界最先端11社がつくるメガトレンドは、大きく3つある。①業種の壁崩壊とコングロマリット化(1企業が昔の財閥のよう多種類の事業展開)の再来、②ハードでもソフトでもなく「体験」が軸になる、③データを制するものが未来を制す
- (4) 2025年を生き抜く処方箋
- 大きく変化する2025年を生き抜くためには、5年後に破壊される企業や台頭する企業を知り、5年後の私たちの仕事の変わりを理解して対応できるように行動することである。具体的には、会社に依存しない、ストラクチャル・ホール(多種多様な交流から業界の壁を超える基点)になる、必須スキル(英語、ファイナンス、データサイエンス、プログラミング、ビジネスモデルが読める)を個人においても、企業においても持つことが重要である。